

科目名	化学		学年	普通科		必/選	単位数
			2	理進	普通	必修	2
				○			
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・化学的な事物・現象を観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・日常生活や社会の化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。 						
使用教材	教科書：「化学 Vol.1 理論編」「化学 Vol.2 物質編」（東京書籍） 副教材：「ニューアチーブ化学」（東京書籍）						
評 価	価 評	(1) 授業への取り組み（態度・発問） (2) 板書及びプリントの内容 (3) 観察・実験等の取り組み・レポート (4) 問題集の取り組み (5) 定期考査・小テストの5つの項目を評価の観点別に評価します。					
	の 評 価 趣 旨 観 点	a	知識・技能	定期考査・小テスト、問題集の取り組み、観察・実験等の取り組み			
		b	思考・判断・表現	定期考査、板書及びプリントの内容、問題集の取り組み、観察・実験等の取り組み・レポート			
		c	主体的に学習に取り組む態度	授業への取り組み、出席状況、プリントや問題集の提出状況 自学自習の取り組み			
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末および学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。							
期	月	時 数	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
					a	b	c
1	4	6	1 編 1 章 物質の状態 ・物質の三態 ・気体・液体の状態変化	固体・液体・気体の3つの状態を確認し、粒子のふるまいを考え、状態変化に伴うエネルギーの出入りや、気液間の平衡については蒸気圧と蒸気圧曲線について理解する。	○	○	○
	5	8	2 章 気体の性質 ・気体 ・気体の状態方程式	ボイルの法則とシャルルの法則からボイル・シャルルの法則が導かれることを理解し、物質量の考えを導入することで気体の状態方程式を理解する。			
	6 7	12	3 章 溶液の性質 ・溶解 ・希薄溶液の性質 ・コロイド	飽和溶液について溶解平衡を使って考え、溶解度と溶解度曲線の表し方について理解するとともに、溶質の分子量、沸点上昇度・凝固点降下度や浸透圧から求める方法を確認する。また、コロイド粒子とその溶液の様々な性質を理解する。	○	○	○
2	9	6	4 章 固体の構造 ・結晶 ・金属結晶の構造 ・イオン結晶の構造 ・分子結晶と共有結合の結晶	結晶の種類について確認し、単位格子と配位数について理解する。また、金属結晶の代表的な構造について考え、それぞれの構造の配列、配位数、充填率について理解し、これをもとにイオン結晶や分子結晶、共有結合の結晶との違いを考える。	○	○	○
	10 11	8 7	2 編 化学反応とエネルギー 1 章 化学反応と熱・光 ・反応とエンタルピー変化 ・ヘスの法則 ・光とエネルギー 2 章 電池と電気分解 ・電池 ・電気分解	化学変化や状態変化には熱の出入りを伴うことを理解し、反応エンタルピーの表し方や状態変化に伴う変化を説明できる。また、ヘスの法則から、結合エンタルピーを用いて反応エンタルピーを求めることができる。 酸化還元反応を利用してエネルギーを電気として取り出す方法について考え、電池の原理を確認する。また、電気分解の酸化還元反応について理解する。	○	○	○
	12 1	7 6	3 編 化学反応の速さと平衡 1 章 化学反応の速さ ・反応の速さ ・反応速度を変える条件 ・反応のしくみ 2 章 化学平衡 ・可逆反応と化学平衡 ・平衡の移動	反応速度 v の表し方を理解し、濃度と反応速度の関係について説明できる。さらに、反応速度の濃度による違い、温度による違い、触媒による違いについて考える。また、活性化エネルギーと化学反応の経路について、反応エンタルピーと結合エンタルピーの違いを理解する。 化学平衡とはどのような状態かを説明でき、その法則の関係から、ルシャトリエの原理を理解し、応用できる。	○	○	○
3	2 3	10	3 章 水溶液中の化学平衡 ・電離平衡 ・塩の水への溶解	弱酸や弱塩基の電離平衡について考え、濃度変化と電離度の関係を理解するとともに、平衡定数から、水のイオン積について確認する。また、塩の水溶液の化学平衡について考え、正塩や酸性塩の性質について理解する。さらに溶解平衡について説明できるようになる。	○	○	○
担当者からのメッセージ（学習方法など）							
毎回の授業に集中して取り組み、プリントや実験レポート、問題集等を必ず提出してください。定期考査は授業内容を問われるので、日々の復習をしっかりと臨んでください。							

科目名	地学基礎	学年		普通科			必/選	単位数
		2	アドバンス		キャリア	スポーツ	必修	2
			国文	理進	○	○		
学習の目標	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境への意欲関心を高める。地球を学び、豊かな自然観を身につけ、観察や実験など科学的に探究する資質・能力を育てる。地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的に探究しようとする態度を養う。							
使用教材	教科書：「高等学校 地学基礎」（第一学習社） 副教材：「新課程版 ネオパルノート 地学基礎」（第一学習社） プリント：教科書と副教材を基準とした内容（A4 サイズ 1 枚程度）							
評価	評価法	(1)授業への取り組み(2)プリントの記載内容(3)観察・実験等(4)ワーク・課題の提出状況 (5)定期考査の 5 つの項目を評価の観点別に評価する。						
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	定期考査・小テスト・ワークの取り組み				
		b	思考・判断・表現	定期考査・授業中の発問に対する返答、ワーク等の内容、観察実習の態度や取り組み				
		c	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業へ取り組む姿勢、プリント・ワークの提出状況 自主学習の取り組み				
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末および学年末には観点別学習状況の評価（A、B、C の 3 段階）および評定（1～5 の 5 段階）にまとめます。								
期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法			
					a	b	c	
1	4	5	第 4 章宇宙と地球 ・宇宙と太陽の誕生 ・太陽系と地球の誕生	宇宙の構造と進化の過程を理解し、最新の宇宙の状態を知る。また、恒星の進化の過程を理解し、太陽系の各惑星の特徴を理解する。	○	○	○	
		5			○	○	○	
	5	2	第 1 章地球のすがた ・地球の概観・プレートの運動 第 2 章地球の活動 ・地震 ・火山活動	地球の概観とその内部構造について理解する。プレートと地球の活動について学び、プレートテクトニクスを理解する。地震の発生やしきみ、地震波の特性を理解する。火山の分布や地形、火成岩の形成について理解する。	○	○	○	
6	5	○			○	○		
2	9	13	第 5 章生物の変遷と地球環境 ・地層と化石 ・地球と生物の変遷	地層と堆積岩、地殻変動や変成岩について理解する。化石について学び、地層との関係を理解する。地球の歴史と各代の生物の特徴を理解する。	○	○	○	
					10	○	○	○
	11	10	第 3 章大気と海洋 ・地球のエネルギー収支 ・大気と海水の運動	大気の構造、熱放射、温室効果について理解する。気圧と天気の関係、日本の四季の特徴について理解する。海水の性質と大循環について理解する。	○	○	○	
12	○	○			○			
3	1	10	第 6 章地球の環境 ・地球環境の化学 ・日本の自然環境	地球温暖化・オゾン層の破壊について理解する。季節の変化や気象災害、地震災害等の防災について理解する。	○	○	○	
2	○				○	○		
担当者からのメッセージ（学習方法など）								
授業に集中して取り組み、プリントや問題集（ワーク）を必ず提出すること。定期考査は、授業の内容を問われる								

のでしっかり復習してからうけること。

科目名	地学基礎	学年		普通科			必/選	単位数
		2	アドバンス		キャリア	スポーツ	必修	2
			国文	理進	○	○		
学習の目標	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境への意欲関心を高める。地球を学び、豊かな自然観を身につけ、観察や実験など科学的に探究する資質・能力を育てる。地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的に探究しようとする態度を養う。							
使用教材	教科書：「高等学校 地学基礎」（第一学習社） 副教材：「新課程版 ネオパルノート 地学基礎」（第一学習社） プリント：教科書と副教材を基準とした内容（A4 サイズ1枚程度）							
評価	評価法	(1)授業への取り組み(2)プリントの記載内容(3)観察・実験等(4)ワーク・課題の提出状況 (5)定期考査の5つの項目を評価の観点別に評価する。						
	評価観点の趣旨	a	知識・技能	定期考査・小テスト・ワークの取り組み				
		b	思考・判断・表現	定期考査・授業中の発問に対する返答、ワーク等の内容、観察実習の態度や取り組み				
		c	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業へ取り組む姿勢、プリント・ワークの提出状況 自主学習の取り組み				
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末および学年末には観点別学習状況の評価（A、B、Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。								
期	月	時数	学習項目・単元	学習内容	評価方法			
					a	b	c	
1	4	5	第4章宇宙と地球 ・宇宙と太陽の誕生 ・太陽系と地球の誕生	宇宙の構造と進化の過程を理解し、最新の宇宙の状態を知る。また、恒星の進化の過程を理解し、太陽系の各惑星の特徴を理解する。	○	○	○	
		5			○	○	○	
	5	2	第1章地球のすがた ・地球の概観・プレートの運動 第2章地球の活動 ・地震 ・火山活動	地球の概観とその内部構造について理解する。プレートと地球の活動について学び、プレートテクトニクスを理解する。地震の発生やしきみ、地震波の特性を理解する。火山の分布や地形、火成岩の形成について理解する。	○	○	○	
6	5	○			○	○		
2	9	13	第5章生物の変遷と地球環境 ・地層と化石 ・地球と生物の変遷	地層と堆積岩、地殻変動や変成岩について理解する。化石について学び、地層との関係を理解する。地球の歴史と各代の生物の特徴を理解する。	○	○	○	
					10	○	○	○
	11	10	第3章大気と海洋 ・地球のエネルギー収支 ・大気と海水の運動	大気の構造、熱放射、温室効果について理解する。気圧と天気の関係、日本の四季の特徴について理解する。海水の性質と大循環について理解する。	○	○	○	
12	○	○			○			
3	1	10	第6章地球の環境 ・地球環境の化学 ・日本の自然環境	地球温暖化・オゾン層の破壊について理解する。季節の変化や気象災害、地震災害等の防災について理解する。	○	○	○	
2	○				○	○		
担当者からのメッセージ（学習方法など）								
授業に集中して取り組み、プリントや問題集（ワーク）を必ず提出すること。定期考査は、授業の内容を問われる								

のでしっかり復習してからうけること。